

# 青丘文庫研究会 月報

No.261

2012年5月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内  
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail [hida@ksyc.jp](mailto:hida@ksyc.jp)  
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)  
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)  
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000円  
 ※他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします。



## <巻頭エッセイ>

### スコフル楽しい済州島ー今夏・怪企画の動向を探る 金突飛 (鈴木常勝) e-mail [sna15564@nifty.com](mailto:sna15564@nifty.com)

我輩は街頭で水あめ売り売り紙芝居、「この道一筋40年」(1972-2012)の人である。

日本・大阪の街角だけでなく、ネパール、インドネシア、マレーシア、アメリカはハワイやカリフォルニア、オーストラリアはメルボルン、中国大陸シルクロード、台湾の小島・ランユイ島まで、失敗恐れず紙芝居。失敗どころか大成功。

「大阪のいたずらっ子のチョンちゃんが今日もいたずら三昧、ずっこける」ーたった十枚の漫画紙芝居が現地の子どもの爆笑を生む。紙芝居は日本の下町生まれ、よその国にはなかったのじゃ。

チョンちゃんが主役のお笑い漫画紙芝居、実は去年済州市の市民交流会で日本語で披露したのじゃ。夜の集会だったゆえ、大人ばかりのお客たちだったが、笑い声は小さいホールにあふれたのじゃ。

そして今夏は「韓国語入り紙芝居」。「韓国語紙芝居」ではないのがミソなのじゃ。自己紹介と紙芝居挿入歌(サランへ♪)は韓国語を使い、「浦島太郎と乙姫の悲しい恋の物語」を日本語で語るという趣向。紙芝居の後、再び絵を示し、お客に韓国語に翻訳してもらうのが、おもしろそうじゃ。珍訳・誤訳がさらに爆笑を生む。このことはネパールはボカラの水汲み場での大阪弁紙芝居実演の後で体験したこと。済州島の街角に、日本語と韓国語が飛び交い、「サランへ♪」の歌声が広がる。紙芝居野外劇場はこうして熱狂のうちに幕を閉じるのじゃ。**8月1日(水)から7日(火)まで済州島に滞在、島内巡業を企てておる。**

ホさんは中国領にされた内モンゴルの草原に生まれ、フフホトで音楽教師となり、大阪市立大学アジア都市文化専攻で修士を取り、この秋モンゴル国のウランバートル大学の博士課程へ進学を予定する。ホさんの歌とモーリンホール(馬頭琴)は、やはり野外がふさわしい。広大な草原に響き渡る声を持つホさん。ハルラ山での歌声とモーリンホール演奏を島中に響かせてみせようぜ。

紙芝居を前座として、ホさんのモーリンホールの登場じゃ。「モンゴル文化を勝手に韓国に紹介する会」となるわけじゃ。ハルラ山のふもとがモンゴル草原に変わる。済州島にアジア大陸の風が吹く。済州島の馬はモンゴル原産というではないか。ホさんも韓国での演奏に準備周到。「アリラン♪」「トラジ♪」「アチミスル♪」などを演奏して、韓国人と一緒に歌おうと、今は演奏の腕をさらに磨く毎日なのじゃ。

さて、お立会い。読者諸兄姉に、お願いじゃ。

- ① 済州島に親類縁者・友人知人がいる方は、当方に連絡を頼む。現地での観客を紹介してもらいたい。出演料・お礼は要求しない。場所と五、六人以上のお客がいれば、島のどこへでも

馳せ参じる。島人の笑顔を我々は生み出したいのじゃ。

- ② 濟州人が好む韓国の歌の楽譜を送ってもらえまいか。ホさんは「モーリンホールの名手」なので、楽譜さえあれば、たちどころに弾けるのじゃ。
- ③ 紙芝居実演には実は「別の狙い」「隠された意図」がある。「昭和16年」以降、朝鮮総督府は「戦争推進・朝鮮人動員」を目論んで、「国策紙芝居」を朝鮮に普及させたという。「国策紙芝居」の記憶を持っている人（もう先が短い年配者じゃ）に出会うための、今回の紙芝居実演でもあるのじゃ。朝鮮での「国策紙芝居」に関する情報も筆者宛ぜひお寄せいただきたいものじゃ。

こちらから現地の人に芸能の楽しみを送り、そしてこちらも観客からの共鳴を楽しむ。現地の人に一方的に取材するのじゃないのじゃないのじゃ。フィールドワークは、そうであってほしいのう。「出世のネタにしよう」という恥ずかしいフィールドワークは、♪やめてけ〜れ、ゲバゲバ（老人と子どものマーチ）。

アジア太平洋戦争で日本政府は「神国不滅」の実例として「元寇」への勝利を宣伝した。「国策紙芝居」の作品として今も残っている。戦中の人びとはどう見たのかのう。

「日本・朝鮮」に加えて「モンゴル」が加わる濟州島の「三者対面」。さても、この場の皆様方よ。スコブル怪しい、おもしろい、どこへ向かうか、今夏の濟州島企画。♪エンヤコラセ〜、ドッコイセ（濟州音頭）、っと。

売名雑誌『スコブル』を発行する「売文家」としてごく一部にその名を知られた「宮武外骨」（みやたけ・がいこつ）氏も我らの珍道中に同行したい旨、表明しているとのこと。

氏の「予は浅学博士なり」との文章に、その人柄のスコブル度が表れておるのう。

現今の何学博士という者には一人も真の博士は無い。皆その学科の或る一目に精通して居るのみである。故に医学博士は文学を知らず農学を知らない。法学博士は理学を知らず工学を知らない。否、伝染病専門の医学博士は外科を知らず精神病を知らない。刑事専門の法学博士は民事を知らず古法を知らない。博士よろしく深士（ふかせ）と改むべしとは先輩の論である。

そこで我輩の学殖如何と云うには、生理学の一斑も心得て居り、心理学の素養も幾許かある。法学思想は十人並以上に具え、考古学も満更知らぬ事なく、歴史地理も一通りは学び、物理学も二、三冊は読み、社会学、言語学、政治家、宗教学も門外漢ではない。美術骨董の鑑定も素人には負けず、浮世絵の研究には数年従事し、古人の随筆雑著は数千巻読んだ。それから学者としての猥褻研究に至っては、自ら世界一を以て任じて居る。だが、いずれも皮相的半可通的であって、深くは知らない。近頃は又更に心靈学研究を専ら行って居る。斯くの如き浅学博士の雑誌記者は、天下広しと雖も予一人であろう。幸いなる本誌読者よ。（大正六年七月発行『スコブル』より。現代表記に改めた）

スコブルロウるさい「浅学博士」の同行で、濟州島の旅は尚更、「弥次さん喜多さん珍道中」か「ドン・キホーテの猪突猛進」になろうことかと、ワクワク心配。かなり怪しい嬉しい雲行きじゃ。♪これこれ石の地藏さん、濟州（チェジュ）に行くのは、こっちかえ。黙っていはわからない（花笠道中）。

この文もいささか、宮武外骨の「売文調」がうつってしまったわい。では、夏に彼の島にて再会！



第332回在日朝鮮人運動史研究会関西西部会（2012年2月12日）

## 解放後の民族教育と教科書—フランゲ文庫所蔵の史料をめぐって 池 貞姫

1945年8月、日本は太平洋戦争の終結とともに、GHQ（連合国軍総司令部）の占領下に置かれることとなった。GHQは、占領政策の一つとして、全ての日本の出版物を検閲対象とし、検閲を行った。戦後残った在日朝鮮人による出版物も勿論例外ではなかった。これらの検閲資料は、現在

アメリカのメリーランド大学内にあるプランゲ文庫に収められている。

### プランゲ文庫について

「プランゲ文庫」というコレクションは、現在米国メリーランド大学のホーンベイク図書館に所蔵されている。このコレクションは、GHQ 戦史室に配属されていた G. W. プランゲ (1910-1980) が、GHQ による検閲対象となった資料群を、検閲が廃止される 1949 年 10 月以後、本務校のメリーランド大学に移管したものが発端となっている。それが後に正式なコレクションとなり、整理が着手されるようになった。コレクションは、雑誌 13,799 タイトル、新聞 18,047 タイトル、図書・パンフレット類約 71,000 タイトルを数える。これには、在日朝鮮人による印刷物も無論含まれている。

### 解放後の在日朝鮮人による民族教育と教科書作成

1945 年 8 月 15 日以降、朝鮮人児童に母国語を教える「国語講習所」が、日本各地で開かれるようになった。当初の目的は、帰国を前提として、日本生まれで同化政策に晒された朝鮮人児童が母国語に不自由しないようにとのものであったが、日本に残留せざるを得ない人びとが次第に増えてくるようになった。「国語講習所」は、全国で 200 を超え、朝連の指導の下 1946 年 4 月頃から徐々に教育機関としての体裁を整え、体系化していくこととなり、その名称を「初等学院」とした。初等学院は、4 月から上 (一・二年) 中 (三・四年) 下 (五・六年) の三学年に分けられ、国語、歴史、地理、算数、体育、音楽などの科目が教えられ、9 月からは再統合し、6 年制となる。

朝連の中央文化部 (後に改編され、47 年「文教局」となる) では「初等教材編纂委員会」が新設され、教科科目を教える基盤となる教科書の作成が急務となった。この教科書作成の重責を担ったのが、当時朝連で活動していた若きインテリたちであった。

1947 年に入り、学年制導入に伴って学年別の教科書を作成する必要性が生じ、教材編纂委員会は質的に新たな段階へと教材編纂を進めていくことになる。

### プランゲ文庫所蔵の朝鮮学校教科書

1946 年出版のもの 8 冊、1947 年出版のもの 9 冊、1948 年出版のもの 3 冊、1949 年出版のもの 5 冊が確認されている。科目は、国語 (朝鮮語)、地理、算数、音楽、美術、歴史などである。なお、地理の教科書である『初等朝鮮地理：全』(1946)の完成本には、ゲラ刷り本があり、検閲局によって 7 カ所の削除処分を受けている

### 教科書の傾向と特徴

まず、教科書がすべて朝鮮語で書かれており、朝鮮語習得に何よりも重点が置かれていたということが如実にわかる。それ故、国語教育は特に重要視され、他教科との関連づけも積極的に促されている。

次に、国語、歴史、地理教科書に限らず、他教科においても民族意識を培養するという姿勢が色濃く反映している。これは、植民地時代、抑圧されていた民族性の回復を目指すと同時に、異郷においても朝鮮人としての自主独立心を持って生きていくことを呼びかけるものである。

さらに、教科書は、左翼的な立場に立脚した朝連という組織の傘下で作成されたが、政治的な扇動を意図するような記述はほとんど見あたらず、何よりも基礎学力の養成を重要視していたことが窺える。教科科目を効果的に教えるために、学年ごとに子どもの発達段階に応じた内容で教科書を構成したり、知識の注入にとどまらず、日常生活と結びつけて教えようとする工夫や姿勢が随所に見てとれる。

今後は、当時の朝鮮学校の教科書をさらに発掘し、教科書執筆者たちの来歴を調査するとともに、日本人教育者の協力関係なども含めて各教科の教科書がいかに作成され、何が目指されていたかを丹念に調べていきたい。

### <合同・出版記念会ご案内>

徐根植『鉄路に響く鉄道工夫アリラン—山陰線工事と朝鮮人労働者—』(明石書店) 高祐二『韓流ブームの源流と神戸』(社会評論社) 寺岡洋『ひょうごの古代朝鮮文化—猪名川流域から明石川流域—』(むくげの会) 徐正敏『韓国キリスト教史概論—その出会いと葛藤—』(かんよう出版) ○日時：2010 年 6 月 30 日 (土) 午後 6 時 ○会場：神戸学生青年センター TEL 078-851-27600 参加費：4000 円 (本代別) ○申込先：神戸学生青年センター飛田 FAX 078-821-5878 e-mail hida@ksyc.jp

## 「日韓キリスト教史研究会」(仮称) 再建への呼び掛け

※この呼びかけ文により去る4月28日、神戸学生青年センターで話し合いがもたれました。具体的に動き出したときにはまたご案内をさしあげます。(飛田)

青丘文庫をベースにして活動していた「日韓キリスト教史研究会」は、蔵田雅彦さん、韓哲曦さんが相次いで逝去され、求心力を失う中、会員の転居などもあり、残念ながらはや青春の記憶の一部となろうとしています。

李省展は昨年度、韓国基督教歴史研究所に籍を置いて研究休暇を過ごす機会を得ました。韓国の研究者も、特に澤正彦、蔵田雅彦をはじめとした日韓交流を特別な思いで記憶し、両研究会の交流を通じて生じた様々な事柄の一部は「伝説」となり若手研究者に伝えられているという状況を目の当たりにしました。おかげさまで友情によって支えられ、有意義な研究生活を送ることができました。その間、ソウルで徐正敏さんと友情を深め、議論を深める中、やはりこの時点で、韓、澤、蔵田の三氏の遺志を継いで、研究会を再建しようという決意に至ることができました。

幸い、徐正敏が、この4月から明治学院大学の客員教授として赴任し、日本をベースにして今後活動することとなりました。これを機会に、研究会の再建を二人から皆様に呼び掛けたいと思います。旧メンバーはもちろんのこと、新たなメンバーを加えていきたいと考えます。

80年代と比べると、日韓関係、日朝関係は大きく変化しました。さらに東アジア、アジアへと視野を広げていきますと、21世紀にはいり大きな転換点を通過するとともに、新時代を迎えようとしています。ということから、この時代を踏まえた、新たな発想も他方で必要かと思われまます。研究レベルでいいますと、東アジアキリスト教史学協議会が日韓中の中で始まり研究交流をすでに始めております、また昨年韓国では、金興洙さんを中心にアジアキリスト教史学会も設立されています。

新しい酒は新しい皮袋にという聖書の言葉にありますように、新たな発想も必要かと思われまます。「日韓」にするか「アジア」にするか名称の議論もあると思われまます、とりあえずは旧メンバーと、キリスト教史に関心のあるメンバーを含めて、下記日時に再建を目指した話し合いを持ちたいと考えますので、よろしくご参加のほどお願い申し上げます。

2012年4月6日

呼びかけ人 李省展(恵泉女学園大学) / 徐正敏(明治学院大学)

### ●青丘文庫研究会のご案内●

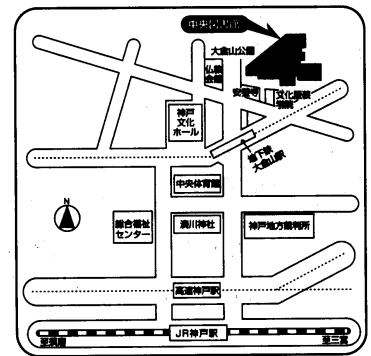
- 朝鮮近現代史研究会 ※お休みです
- 第333回在日朝鮮人運動史研究会関西部会  
5月13日(日)午後1時～5時

#### ①「小林勝の文学における朝鮮について」

原佑介

- #### ②「戦前期大阪朝鮮人社会とシカゴ黒人社会の比較研究： マイノリティーの経験をグローバル・ヒストリーの中に 位置づけて」堀田千里

※会場 神戸市立中央図書館内 青丘文庫 TEL 078-371-3351



### 【今後の研究会の予定】

6月10日(日)在日(浅見洋子)、近現代史(未定?)、7月8日(日)在日(川口祥子)近現代史(未定)。研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

### 【月報の巻頭エッセイの予定】

7月号以降は、宇野田尚哉、斎藤正樹、本岡拓哉、高野昭雄、李景珉、李裕淑、小野容照、梶居佳広、中川健一、黒川伊織、砂上昌一、三宅美千子、佐野通夫、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締切は前月の10日です。